

**袋井市立小中学校プール利活用の
あり方に関する基本方針**

**令和 5 年 2 月
袋井市教育委員会**

目 次

CONTENTS

1 小中学校プール利活用に関する背景・現状

- (1) 学校プールの現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 水泳授業の意義、位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - ア 教科の目標と内容
 - イ 水泳運動系の授業時数
- (3) 市営プールの恵まれた整備環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

2 小中学校プールの維持に関する課題

- (1) 施設上の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (2) 運営上の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (3) 児童生徒数減少の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) 財政上の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (5) 業務効率化上の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

3 市営プールを活用した水泳授業試行等

- (1) 実施内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - ア 令和3年度
 - イ 令和4年度
- (2) 試行に対する児童、教員の意見（アンケート結果）・・・・ 12
 - ア 児童
 - イ 教員
- (3) 効果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - ア 安全面・衛生面
 - イ 児童の泳力向上と教員の指導力向上

(4) 課題	14
ア 指導方法の共有化	
イ 授業回数等の調整	
ウ 移動手段の確保と所要時間への柔軟な対応	
エ 一般利用者との共存	

4 学校プールのあり方

(1) 学校プールのあり方に関する基本方針	16
ア 児童生徒の安全・安心・安定を守る計画的な保全	
イ 市営プールの活用と施設の長寿命化の推進	
ウ 児童生徒の泳力の維持向上	
(2) 小学校	16
ア 学校プールの区分	
イ 小学校プール切り替え等の実施区分	
ウ 業務の効率化とコストの削減	
(3) 中学校	19
(4) 基本方針に基づく本格実施時期	19

5 今後の展開

(1) 小学校における市営プール活用に関する当面の運用方法	20
ア 専門人材の活用による授業の質の向上	
イ 指定管理者との連携	
ウ 移動時の安全安心な運行	
エ 授業時数の確保	
オ 実施時期の柔軟な運用	
カ 長寿命化型学校等へのインストラクター派遣	
(2) 基本方針に基づくフォローアップ	22
(3) 長期視点に立った市営プールの需要と供給のバランスの確保	22
(4) 切り替え後のプールの跡地利用に向けて	23

1 小中学校プール利活用に関する背景・現状

(1) 学校プールの現状

全国の学校プールは、昭和 39 年東京オリンピックや第 2 次ベビーブーム(昭和 46～49 年)の影響を受けて、昭和 40 年以降に急速に整備され、また、学校における水泳授業の目的は、当初の水難事故から命を守ることに加え、心身の健康、生涯スポーツとしての水泳の楽しみ方を知るなどの目的へと変化し、現在に至っている。

本市の小中学校のプール（以下「学校プール」という。）も多くが昭和 40～50 年代に校舎と併せて建設され、その後、老朽化や児童生徒の増加等を受けて約半数は平成に入り改築を行ったが、残り約半数は建設当初のものを使用している。

このため、近年では老朽化が進行し、安全・安心・安定した学習環境の確保が懸念されるとともに、維持管理費の増加、稼働率の減少等の課題も生じている。

以上を踏まえ、本市の学校プールについて、現状の課題や教育環境の確保、財政的な効果等を見据え、実情に見合ったあり方を策定し、それを基に取組を推進する。

■学校・市営プール基本情報

(令和 4 年 4 月 1 日現在)

区分	学校名	所在地	建設年度	経過年数	プール槽	プール材	大プール				小プール			付属棟	
							長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	コース数	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	床面積(m ²)	構造
小学校	袋井東小学校	広岡	H2	32	FRP	ビニールシート	25.0	13.0	0.9	7	10.0	8.0	0.7	40.00	RC造
	袋井西小学校	川井	H11	23	FRP	ビニールシート	25.0	13.0	1.0	7	10.0	8.0	0.7	87.00	RC造
	袋井南小学校	高尾	H10	24	FRP	ビニールシート	25.0	13.0	1.0	7	10.0	8.0	0.7	71.00	RC造
	袋井北小学校	久能	H23	11	FRP	ビニールシート	25.0	16.0	1.0	8	12.0	8.0	0.7	163.00	RC造
	今井小学校	太田	H3	31	FRP	ビニールシート	25.0	13.0	0.9	7	10.0	8.0	0.7	42.05	RC造
	三川小学校	友永	S51	46	鋼板+塗装	ビニールシート	25.0	11.8	0.9	6	10.0	8.0	0.45	39.00	S造
	笠原小学校	山崎	H4	30	FRP	塗膜防水	25.0	13.0	0.9	7	10.0	8.0	0.7	55.30	RC造
	山名小学校	春岡	H11	23	FRP	ビニールシート	25.0	13.0	1.0	7	11.4	7.0	0.7	120.00	RC造
	高南小学校	上田町	S54	43	鋼板+塗装	ビニールシート	25.0	13.0	0.9	6	10.0	8.0	0.5	47.00	S造
	浅羽南小学校	西同笠	S40	57	コンクリート+FRP	コンクリート	25.0	13.0	1.0	7	13.0	6.0	0.7	60.00	S造
	浅羽北小学校	浅羽	S48	49	コンクリート+FRP	コンクリート	25.0	15.0	0.9	7	13.0	6.0	0.5	60.00	S造
	浅羽東小学校	浅羽	H2	32	FRP	塗装	25.0	15.0	1.0	7	15.0	8.0	0.7	100.93	RC造
	中学校	袋井中学校	川井	S60	37	鋼板+塗装	ビニールシート	25.0	16.0	1.2	8				62.00
周南中学校		下山梨	H8	26	FRP	塗装	50.0	16.0	1.2	8				53.00	CB造
袋井南中学校		愛野	S51	46	鋼板+塗装	ビニールシート	50.0	17.0	1.2	8				82.00	S造
浅羽中学校		浅名	S42	55	コンクリート+FRP	コンクリート	50.0	18.0	1.2	8				97.00	S造
市営	袋井B&G海洋センター	上田町	H1	33	鋼板+塗装	コンクリート平板	25.0	13.0	1.1	6	10.0	6.0	0.5		
	月見の里学遊館	上山梨	H13	21	FRP	モザイクタイル	25.0	15.0	1.2	7	5.0	3.0	0.3		
	風見の丘	岡崎	H23	11	FRP	ビニールシート	25.0	13.0	1.1	6	8.0	4.0	0.3		

(2) 水泳授業の意義、位置づけ（小学校学習指導要領/平成 29 年告示/体育編）

ア 教科の目標と内容

・目標

小学校における体育科の目標は、生涯にわたって心身の健康を保守増進し、ゆたかなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指すこととしている。

・内容

体育科は、運動領域と保健領域から構成され、体育科の内容構成は次のとおりである。

■ 小学校体育科の内容構成

学年	1・2	3・4	5・6
領域	体づくりの運動遊び	体づくり運動	
	器械・器具を使つての運動遊び	器械運動	
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水遊び	水泳運動	
	ゲーム	ボール運動	
	表現リズム遊び	表現運動	
		保健	

・水泳運動系

水泳運動系は、水の中という特殊な環境での活動におけるその物理的な特性（浮力、水圧、抗力・揚力など）を生かし、浮く、呼吸する、進むなどの課題を達成し、水に親しむ楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、水泳運動系は生命にかかわることから、水泳場の確保が困難で水泳運動系を扱えない場合でも、「水遊び」や「水泳運動」などの心得については必ず指導することが求められている。そのため、1、2年生は「水遊び」、3年生以上は「水泳運動」として基本的な泳力の習得が求められている。

■「水遊び」と「水泳運動」

学 年	種 別	内 容
1、2年	水遊び	「水の中を移動する運動遊び」及び「潜る・浮く運動遊び」で構成され、水につかって歩いたり走ったり、水に潜ったり浮いたりする楽しさに触れることができる運動遊びである。
3、4年	水泳運動	「浮いて進む運動」及び「潜る・浮く運動」で構成され、水に浮いて進んだり呼吸したり、様々な方法で水に潜ったり浮いたりする楽しさや喜びに触れることができる運動である
5、6年		3、4年生の基礎の上に「クロール」、「平泳ぎ」及び「安全確保につながる運動」で構成され、続けて長く泳いだり、泳ぐ距離や浮いている時間を延ばしたり、記録を達成したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

イ 水泳運動系の授業時数

小学校授業の教育課程は、学校教育法施行規則第 51 条別表第一に定める授業時数を標準としており、一年間当たりの体育授業時数 90～105 時数のうち、本市では概ね 10 授業時数程度が「水泳運動系」に充てられている。

■学校教育法施行規則第 51 条別表第一（抜粋）

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
各教科の 授業時数	国語	306	315	245	245	175	175
	社会			70	90	100	105
	算数	136	175	175	175	175	175
	理科			90	105	105	105
	生活	102	105				
	音楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家庭					60	55
	体育	102	105	105	105	90	90
	外国語					70	70
特別の教科である道徳の授業時数		34	35	35	35	35	35
外国語活動の授業時数				35	35		
総合的な学習の時間の授業時数				70	70	70	70
特別活動の授業時数		34	35	35	35	35	35
総授業時数		850	910	980	1015	1015	1015

※この表の授業時数の一単位時間は、45分とする。

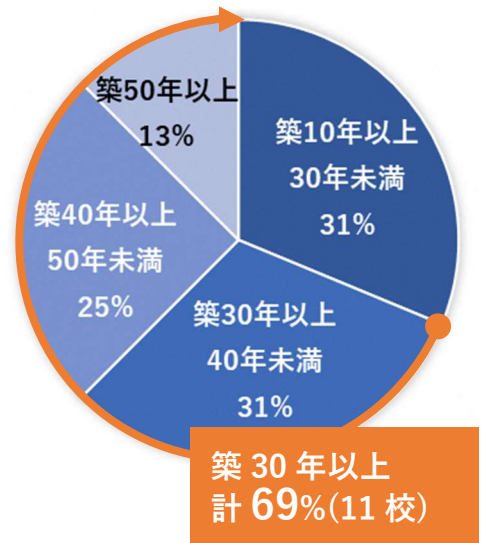
(3) 市営プールの恵まれた整備環境

市内には、月見の里学遊館水玉プール、袋井 B&G 海洋センター及び風見の丘プールと、3つの市営プールが立地しており、施設管理のみならず、専門的なインストラクターによる水泳指導による市民のスポーツ振興、心身の健康保持が行われている。

2 小中学校プールの維持に関する課題

(1) 施設上の課題

一般的に屋外プールの耐用年数は、概ね 30 年とされている。本市の学校プールは、最も古い浅羽南小学校（築 57 年）を筆頭に、築 30 年以上のものが全体の約 69%（11/16 校）を占めている。特に、プール槽、プールサイド、設備機器の老朽化は顕著であり、随時、修繕している。こうした老朽化は、けがのリスク増加、授業への支障、突発的な使用停止に繋がる。



(2) 運営上の課題

学校プールは小学校と中学校で運用形態・期間が異なる。小中学校とも水泳授業は概ね 10 授業時数であり、その他、中学校プールは部活動により一定の使用がある。一方で、小学校プールは長期休み期間中に 8 回ほど実施していたプール開放が終了し、また、水泳大会に向け 20 回程度実施していた放課後の水泳練習も終了したことで、年間稼働率は減少している。

■学校プール使用期間

区分	内容	5月	6月	7月	8月	9月	10月
小学校	水泳授業		●	→			
中学校	水泳授業			●	→		
	部活動	●	→				

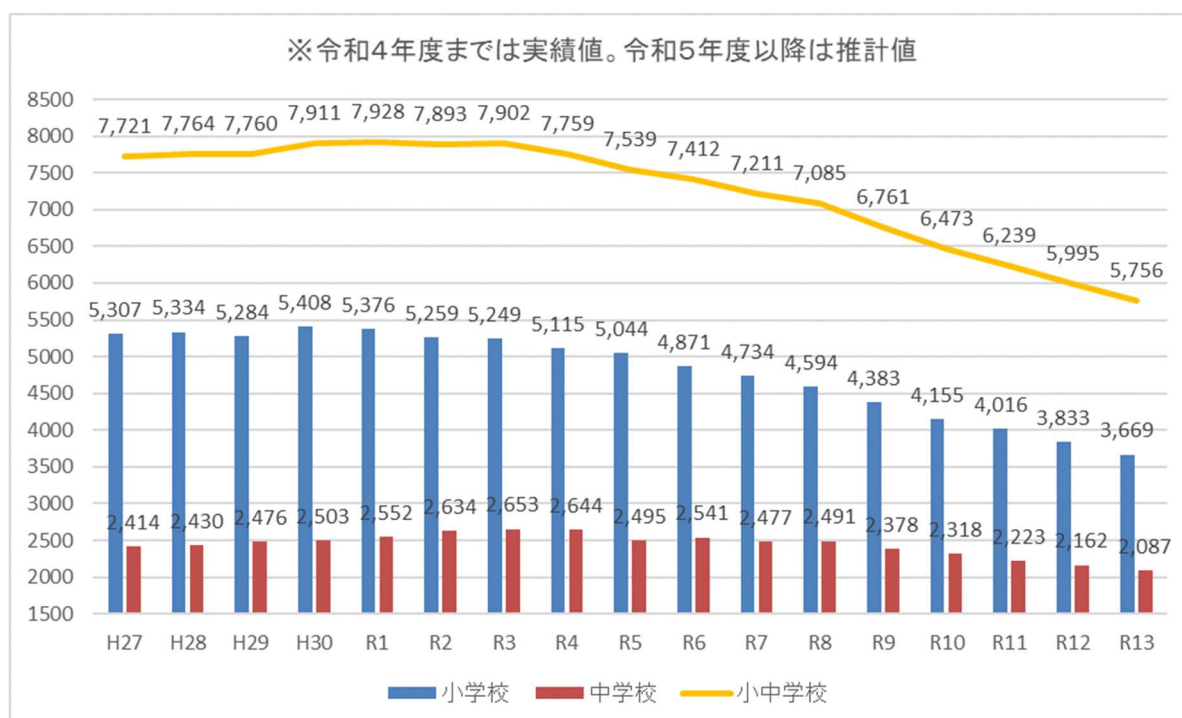
(3) 児童生徒数減少の課題

本市の児童生徒数については、下表のとおり小学校の児童数が平成 30 年度 5,408 人のピークを境に減少傾向にあり、同じく中学校の生徒数に関しては、令和 3 年度 2,653 人のピークを境に減少していく傾向となっている。

市内小中学校の児童生徒数は、今後ますます減少していく傾向にあり、令和 13 年度では 5,756 人（令和 4 年度比 25.8 ポイント減）の見込みとなっている。

先に述べたプールの稼働率減少とともに、児童生徒数の減少によりプール使用率はさらに減少していくこととなる。

■小中学校の児童生徒数の推計



(4) 財政上の課題

プールは建築物と同様に、建築～運用～解体に至るまでの LCC（ライフサイクルコスト/生涯費用）がかかる。学校プールを 80 年間※1使用して改築する場合、全小中学校では総額約 57.7 億円、年平均で約 7.2 千万円かかると予想される。なお、LCC は改築するごとに 80 年サイクルで継続的に発生する。

※1：躯体のコンクリートの健全性を確認し、プール槽、プールサイド、設備機器を、40 年経過時に全面的に改修することで 80 年程度まで使用が可能とされる。（日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」を参考に目標耐用年数を設定）

ア LCC算出基本条件

① イニシャルコスト

- ・ 築後 40 年目に長寿命化改修（プール槽、プールサイド、設備機器の改修）を設定
- ・ 築後 80 年目に解体と建替えを設定

② ランニングコスト

- ・ 過去 5 年の維持管理費(水道料、薬剤費、清掃・点検委託料、修繕料)の平均×80 年

イ 学校プールLCC試算

大区分	小区分	内 容	学校プール LCC(千円)	学校プール年間 LCC(千円/年)	1校当たりの年間 LCC(千円/年/校)
小学校 (12校)	①イニシャルコスト	長寿命化改修費（40年目） 改築費（80年目）	3,120,000	39,000	3,250
	②ランニングコスト	水道料、薬剤費、修繕料 清掃・点検委託料の平均	902,400	11,280	940
		小計	4,022,400	50,280	4,190
中学校 (4校)	①イニシャルコスト	長寿命化改修費（40年目） 改築費（80年目）	1,040,000	13,000	3,250
	②ランニングコスト	水道料、薬剤費、修繕料 清掃・点検委託料の平均	707,200	8,840	2,210
		小計	1,747,200	21,840	5,460
		合計	5,769,600	72,120	4,508

80 年間の小中学校の総額：約 **57.7 億円**
年平均：約 **7.2 千万円/年**

(5) 業務効率化上の課題

学校プールにかかる維持管理には、財政的な経費のみならず、プールを使用する期間を通して必要とされる人的負担も生じる。特に、体育主任によるプール期間中の維持管理をはじめ、毎朝の水温・残留塩素調査及び薬剤散布は始業時間前の対応が必要となる。また、プール清掃実施のための会議資料を作成したり、清掃後は水の溜まり具合をこまめに確認・調整したりするなど多くの時間が必要とされる。

さらに、小学校の水泳授業においては、個別指導を行う際にも同時に命の危険が伴う可能性がある点を考慮し、児童全体への高い注意意識が必要とされる。

3 市営プールを活用した水泳授業試行等

学校プールが抱える施設上や運営上の課題の解決に向けて、令和3年度と令和4年度に市営プールを活用し、且つ、インストラクターの指導を取り入れた水泳授業の試行を実施した。

(1) 実施内容

ア 令和3年度

実施時期	学校名	実施場所	移動手段	移動距離	築年数
令和3年10月	高南小学校	袋井B&G海洋センター	徒歩	0.25km (約3分)	43年
令和3年11月	浅羽南小学校		児童送迎バス	7.7km (約18分)	57年

本格実施の際の移動手段は児童送迎バスと徒歩が考えられるため、バス移動の浅羽南小学校と徒歩移動の高南小学校を試行の対象とした。

また、この2校は、築40年以上が経過し老朽化が進行しているため、比較的新しい市営プールを使用した際の、児童、教員の反応が顕著である可能性が高いことを考慮した。

【試行の狙い】

- ・ 移動、着替え、授業等に掛かる時間配分、安全面等の確認
- ・ 水泳授業における教員とインストラクターの連携の確認
- ・ 市営プールを活用した水泳授業について児童、教員等の意識の把握

■ 基本条件

- 市営プールは貸切り利用とする。
- 各学年1回ずつ授業を行う。
- 学年単位合同で授業を実施する。
- 学級担任、体育主任、支援員及びインストラクターが協同で授業を実施。
- インストラクターを1クラスに2名配置する。
- 移動は徒歩又は児童送迎バスを利用

■ 試行の様子



バス移動



水泳授業（低学年）



水泳授業（中学年）

イ 令和4年度

実施時期	学校名	実施場所	移動手段	移動距離	築年数
令和4年6・7月	三川小学校	月見の里学遊館	児童送迎バス	3.5km (約6分)	46年
令和4年6月	浅羽北小学校	風見の丘		2.3km (約5分)	49年
令和4年9月	袋井西小学校	袋井B&G海洋センター		2.5km (約7分)	23年

令和4年度は3施設ある市内の市営プールを全て活用し、施設、インストラクター一等が授業に対応できるかを検証した。なお、築40年以上が経過している三川小、浅羽北小を試行の対象とし、併せて、児童数の多い学校への対応可否について検証するため、クラス数が3クラス以上ある袋井西小において試行を実施した。

【試行の狙い】

令和3年度の試行時の課題を受けて次の2点を試行の狙いとした。

■課題1. 教員とインストラクターとの間で、役割分担、学習ルール等の共通理解ができていなかった点。

- ・インストラクターを1クラスに1名配置することで、より実践的なチームティーチングの体制を検証する。
- ・複数回授業を実施し、本格導入に向けた体制を検証する。

■課題2. バスで移動する学校は移動時間が授業時間を圧迫していた点。

- ・昨年度の試行で把握した、バス移動や着替えの所要時間を参考にタイムスケジュールを計画するとともに時間管理を徹底し、円滑な授業を実施する。
- ・三川小ではバス移動に掛かる時間をより削減するため、3授業時数通しでの授業を実施する。

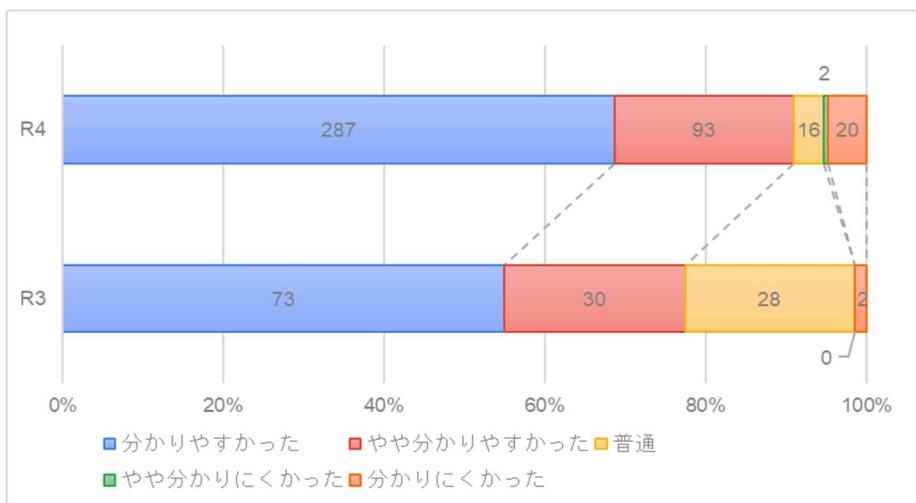
■基本条件

- 袋井B & G海洋センター及び風見の丘は貸し切り利用とし、月見の里学遊館は一般客と共用利用とする。
- 袋井西小・浅羽北小は各学年1回、三川小は各学年2回授業を行う。
- 学年単位合同で授業を実施する。(三川小は2学年合同)
- インストラクターを1クラスに1名配置する。
- 授業計画を担当が考え、インストラクターは担任のサポートを行う。
- 移動は児童送迎バスを利用

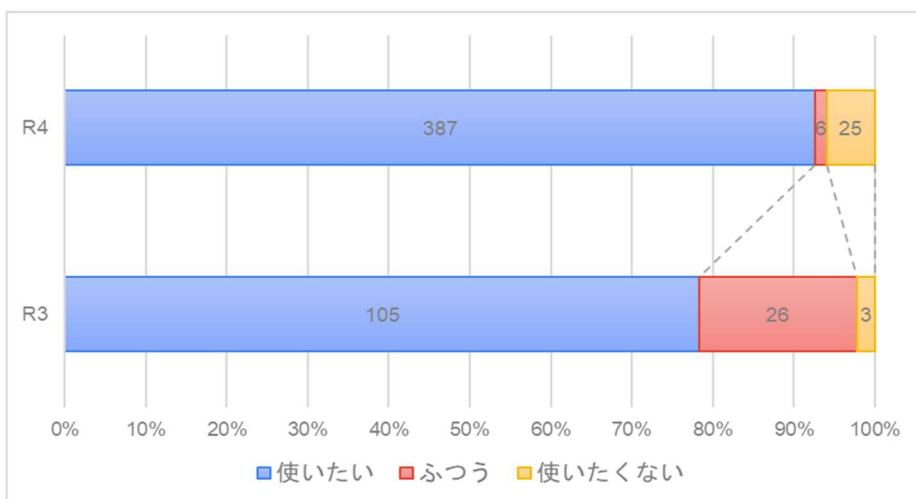
(2) 試行に対する児童、教員の意見（アンケート結果）

ア 児童（令和3年度、令和4年度）

質問：インストラクターの教え方はどうだったか



質問：また市営プールを使いたいのか



■ 児童意見

- ・ 声大きいからわかりやすい。
- ・ ロッカーが広くて使いやすい。
- ・ 虫がいなくて清潔。
- ・ 教え方が上手だった。
- ・ 深さを調節してくれて良かった。
- ・ 水が温かくて泳ぎやすかった。
- ・ 皆で同じことをやらないから
楽しいチームと楽しくないチーム
がある。
- ・ 時間が少ない。
- ・ いろんなコーチがしゃべって聞く
のが大変だった。

※ 赤字：肯定的意見 青字：課題的意見

イ 教員

※ 赤字：肯定的意見 青字：課題的意見

(ア) 高南小学校

- ・学校とスイミングでの考えの違い。技能だけではなく、学びに向かう態度やルール、協調性など多くのことも分かる。学校とインストラクターとの共通理解が必要。
- ・学校のプールの老朽化が問題となる中、新たな取り組みをしていただきありがたかった。検討すべきこともあるが、考えていきたい。

(イ) 浅羽南小学校

- ・移動時間が掛かり過ぎてしまっていた。バス移動の往復 40 分は長かった。
- ・更衣室が人数的に少し窮屈で着替えや髪を乾かすのに手間取っている児童がいた。
- ・プール内に赤台があり、状況にあわせて高さを調整していて良かった。
- ・プールサイドに十分なスペースがあった。
- ・インストラクターの指導は、とても盛り上がっていて、前向きに水泳にむかっていけるような指導だった。

(ウ) 三川小学校

- ・一般のお客さんもいるので、プールサイドに並ぶと指示が出しづらかったです。
- ・分かりやすく教えていただきました。効果的な練習方法も提案していただき、教員にとっても学びになりました。

(エ) 浅羽北小学校

- ・今回は、50 人程度の児童を一度に指導したが、インストラクター二人では足りない。わざわざ長距離を移動して普段と大して変わらない人数なら学校より指導時間が短くなるだけであると感じる。
- ・学校と比べて、プールサイドやプールが綺麗なところと、設備や道具が整っているところは、やはり授業をする上でありがたい。

(オ) 袋井西小学校

- ・約 80 人での体操は場所が狭く、あまり広がれないため児童同士で手があたりそうでした。
- ・更衣室が狭く、トイレが少なく大変だった。
- ・設備としては室内で日照りもなく、浮遊物等もないためとても良い環境だと思いました。

(3) 効果

ア 安全面・衛生面

- ・屋内プール環境により、炎天下での熱中症や日焼けの防止が図られるとともに、雨天等の外的悪影響からの回避ができ、計画的に授業が実施できる。
- ・施設の指定管理者運営の下、教員、インストラクター及び監視員等、複数の目による監視となり、安全な授業環境の確保が可能となる。
- ・公共施設として年間を通して管理が行き届いているとともに、施設が比較的新しいことにより、老朽化など、施設の不備によるケガ等の発生が抑制される。

イ 児童の泳力向上と教員の指導力向上

- ・教員とインストラクターの連携により、個々の児童の泳力に合わせた、きめ細やか、且つ専門的な指導を行うことで、児童の泳力の維持・向上が期待できる。
- ・教員がインストラクターの指導方法を見聞きすることで、指導方法を学び、自らの指導力の向上に役立てることができる。

(4) 課題

ア 指導方法の共有化

- ・インストラクターの活用を想定した場合、あくまで授業は教員が主で、インストラクターが従の関係とし、役割分担、成績の付け方、学習ルール等の共通理解が必要である。また、そのための事前調整に要する時間の確保も必要とされる。

■ 現場の評価

- ・インストラクター主導の授業になってしまっていたが、教師が主導で指導をするべきだと思う。事前に打ち合わせをし、共通理解を深めるべきだと感じる。

イ 授業回数等の調整

- ・児童の泳力の状況、到達目標などを総合的に判断し、水泳授業の全体回数を検討する必要がある（学習指導要領（文部科学省）では、水泳授業の必要時間数の設定はない）。

ウ 移動手段の確保と所要時間への柔軟な対応

- ・4小学校が利用する児童送迎バスの有効活用を図る。
- ・学校と市営プールとの距離を勘案し、移動時間と授業時間との正確な算出により、効率的な授業実施を計画する。(移動経路、待機・乗降場所、着替え等)

■ 現場の評価

- ・出発のための準備、移動等で時間がかかり、実際の活動時間が短くなってしまった。

エ 一般利用者との共存

- ・通常、一般利用者のため開放、又は教室が開催されてきた時間帯に、コース利用又は専用利用にて水泳授業を実施するため、市民の利用と市営プールの運営に支障をきたさないよう、授業日程についての十分な協議、調整が必要となる。

■ 現場の評価

- ・一般の利用者に迷惑がかかっていたようにも感じる。指示の出し方や場所の使い方に配慮が必要。

■ その他現場の意見

- ・学年ごとの授業になるため、プール内の活動場所が学校で行うときに比べ狭かった。プールサイドに並び、広い範囲で一斉に泳ぐような場の設定ができない。
- ・毎週月曜の午前実施となると、子どもたちの生活リズムを整えにくくなるので、曜日の検討もしてもらいたい。
- ・クラス数の多い袋井西小の試行では、授業の実施方法や送迎手段に及ぼす課題等が他校よりも顕在化した。

4 学校プールのあり方

(1) 学校プールのあり方に関する基本方針

学校施設のプールの実態や目指すべき姿を踏まえ、今後の学校プールのあり方に関する基本方針を定める。

ア 児童生徒の安全・安心・安定を守る計画的な保全

プール施設については、学校環境衛生基準に基づき、日常的に適切な管理に努めるとともに、日常点検、建物の劣化診断などを実施し、施設の状態や劣化状況の把握、危険不具合箇所の早期発見に努め、速やかな修繕又は安全対策を講じる。

イ 市営プールの活用と施設の長寿命化の推進

プール施設の更新については、将来の児童生徒数の減少や、プール使用の稼働率を見据えながら、市営プールを活用できる学校については切り替えを進める。

また、学校プールを継続使用する学校については、適切な維持管理による財政負担の平準化及び計画的に大規模改修・修繕を行うことにより LCC の削減を図る。

ウ 児童生徒の泳力の維持向上

水泳については児童生徒の生命にかかわることであるため、教育課程に基づき適切に定めた授業時数を確保し、基本的な泳力の習得と生涯にわたる健康意識の定着などを目的に、泳力の維持向上を図る。

(2) 小学校

年間稼働率が低い小学校のプールにおいては、築年数と児童数(クラス数)の2つの視点から、「市営プール移行型」、「あり方検討型」及び「長寿命化型」とに区分し、且つ、移行型においては段階的に切り替えることを基本とする。

その他、一部の学校プールを集約化し、新たな場所へ学校専用プールを建設する方法などが考えられるが、学校専用プールの新規建設には建設用地の選定や、多額の建設費用等が生じることから、現実問題として実現は難しい。

ア 学校プールの区分

区 分	学校名	対 象	方 針
市営プール移行型 (4校)	三川小	・プールの築年数が40年を超える 且つクラス数が少ない小学校	プールを廃止し、 最寄りの市営プールを使用
	高南小		
	浅羽南小		
	浅羽北小		
あり方検討型 (4校)	袋井東小	・プールの築年数が30年を超える 且つクラス数が少ない小学校	今後の動向に注視し、プールの あり方を検討
	今井小		
	笠原小		
	浅羽東小		
長寿命化型 (4校)	袋井西小	・プールが新しい 且つクラス数が多い小学校	プールを長寿命化改修し、 引き続き使用
	袋井南小		
	袋井北小		
	山名小		

■市営プール移行型

現時点（令和4年度）で改修時期である築40年以上であり、且つクラス数が少ない4校（三川小、高南小、浅羽南小、浅羽北小）については、学校プールの使用を止め、令和5年度から市営プールに切り替える。

■あり方検討型

築30年を超えており、且つクラス数が少ない4校（袋井東小、今井小、笠原小、浅羽東小）については、改修時期である築40年を目途に移行の是非について検討を進める。

■長寿命化型

プールが比較的新しく、且つクラス数が多い4校（袋井西小、袋井南小、袋井北小、山名小）については、引き続き学校プールを利用し、改修時期である築40年以上となる年度を目途に、老朽化状況等を勘案した上で、切り替えを検討する。

イ 小学校プール切り替え等の実施区分

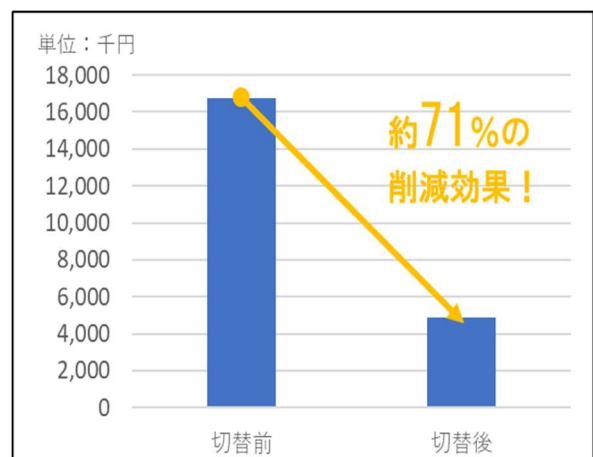
区分	学校名	築年数	クラス数	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14以降
				2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
市営プール移行型	三川小	46	6										
	高南小	43	13	移行開始（4校）									
	浅羽南小	57	10										
	浅羽北小	49	12										
袋井東小	32	11											
あり方検討型	今井小	31	10										
	笠原小	30	6										
	浅羽東小	32	12										
	袋井西小	23	17										
長寿命化型	袋井南小	24	19	継続使用（4校）									
	袋井北小	11	29										
	山名小	23	28										

ウ 業務の効率化とコストの削減

- ・ 水泳授業を市営プールに切り替えて学校プールを廃止した場合、年間を通して教員の学校プールにかかる日常の維持管理（プール清掃、水温計測、薬剤散布等）が不要となるなど、業務の効率化が図られる。
- ・ 学校プールを存続させた場合の LCC と市営プールに切り替えた場合の費用（市営プール使用料、水泳指導料、バス運行料）を比較した場合、1 小学校あたり約 300 万円/年の経費削減が想定される。

■ 小学校プール4校を市営プールに切り替えた場合の年間費用比較

区分	内容	金額 (千円/年)
切替前費用	イニシャルコスト	13,000
	ランニングコスト	3,760
	①小学校プールの年間LCC	16,760
切替後費用	解体費用	500
	市営プール使用料	872
	水泳授業指導料	2,650
	送迎バス運行料	878
	②市営プール切替後の年間費用計	4,900
差額（①-②）		11,860



(3) 中学校

中学校のプールにおいては、引き続き自校プールを使用していくこととし、老朽化によるけがの防止及び水漏れ等の不具合の解消のため、長寿命化改修工事を実施することを基本とする。

中学校も水泳授業は概ね 10 授業時数であるが、5 月から 10 月の間、各学校で水泳部の部活動があるため、一定期間中プールを使用している状況にあり、プールの稼働率は高い。

さらに、中学校は教科担任制による授業であるため、市営プールの利用のためには体育科の教員が引率をすることになり、特定の教員の負担が大きくなるとともに、時間割の調整も煩雑になることが想定される。

(4) 基本方針に基づく本格実施時期

小学校では、築年数と児童数を基に分類した 3 つの区分において、市営プールへの移行、又は移行等の検討を行う。

特に、築 40 年を超える「市営プール移行型」では 2 年間の試行の結果を踏まえ、令和 5 年度から移行する。

中学校では、概ね築 40 年を経過する 3 中学校において令和 5 年度から順次、長寿命化改修を実施する。

5 今後の展開

(1) 小学校における市営プール活用に関する当面の運用方法

学習指導要領に基づき、目標と領域等に準じた水泳系運動の授業時数の確保と児童の泳力の向上に向けて、2年間の実証結果を活かし、効率的、且つ、安全安心な学習環境の充実を図る。

ア 専門人材の活用による授業の質の向上

(ア) インストラクターの活用

教員の指導力を考慮した上で、必要に応じて1クラス1名の割合で、市営プールのインストラクターを配置し、授業支援を受けることで、きめ細やかな指導体制の構築を図る。

(イ) 教員とインストラクターとのチームティーチング

市営プールでの学習は、あくまで「授業」であるため、教員が主、インストラクターが従という役割分担のもと実施する。教員が「単元計画」「目標」「学習の流れ」等を計画し、事前にインストラクターとの打合せを行う。授業当日は、児童が専門的な技能に関する知識を獲得したり、模範泳を見たりする場面でインストラクターに協力を得るなど、教員主導の指導を前提とする。

イ 指定管理者との連携

施設使用、指導補助、監視及び授業運営支援等に関わる業務委託契約により、質の高い授業環境の確保と、児童にとって安全安心な水泳授業を実施する。

併せて、授業実施時の責任の所在等、リスク管理を明確にした上で取組みを推進する。

ウ 移動時の安全安心な運行

児童及び教員等の学校、市営プール間の移動には、市が所有する児童送迎バスを活用し、且つ、専門の運転手による送迎を行う。また、移動中の車内の安全確保及び降車時の人員確認等には複数人で対応するなど、児童に対し細心の注意を払う。

エ 授業時数の確保

学校と市営プールの往復時間と実際の活動時間を合わせると1回当たり、2授業時数以上の時間を要する。例えば、2授業時数を実施する場合、移動時間の0.5授業時数（20分程度）を差し引いて1.5授業時数を体育の授業でカウントし、0.5授業時数は余剰時数を充てる。

本市では学校の水泳授業は年間10授業時数の実施を目標にカリキュラムの編成を行っており、各クラス7回／年の市営プールでの水泳授業実施を基本とする。

オ 実施時期の柔軟な運用

温水プールの利点を活かし、外気温などに関係なく年間を通じた市営プールでの水泳授業の柔軟な実施を目指す。当面の間は5月から10月の間を中心とした実施とし、既存の市営プール利用者との共存を図る。

■ 実施時期

区分	5月	6月	7月	8月	9月	10月
移行前 (学校プール)		●	→			
移行後 (市営プール)	●	→	→	→	→	→

カ 長寿命化型学校等へのインストラクター派遣

インストラクターの有無によって、「市営プール移行型」と「あり方検討型」、「長寿命化型」の間で指導内容の差が生まれないう、インストラクターの専門的な知識技能を全小学校で共有し、どの小学校でも効果的な水泳指導が実施できる授業環境の実現を目指す。

教員の資質向上に向けた研修会の開催や、チームティーチングによる授業の実施を検討する。

(2) 基本方針に基づくフォローアップ

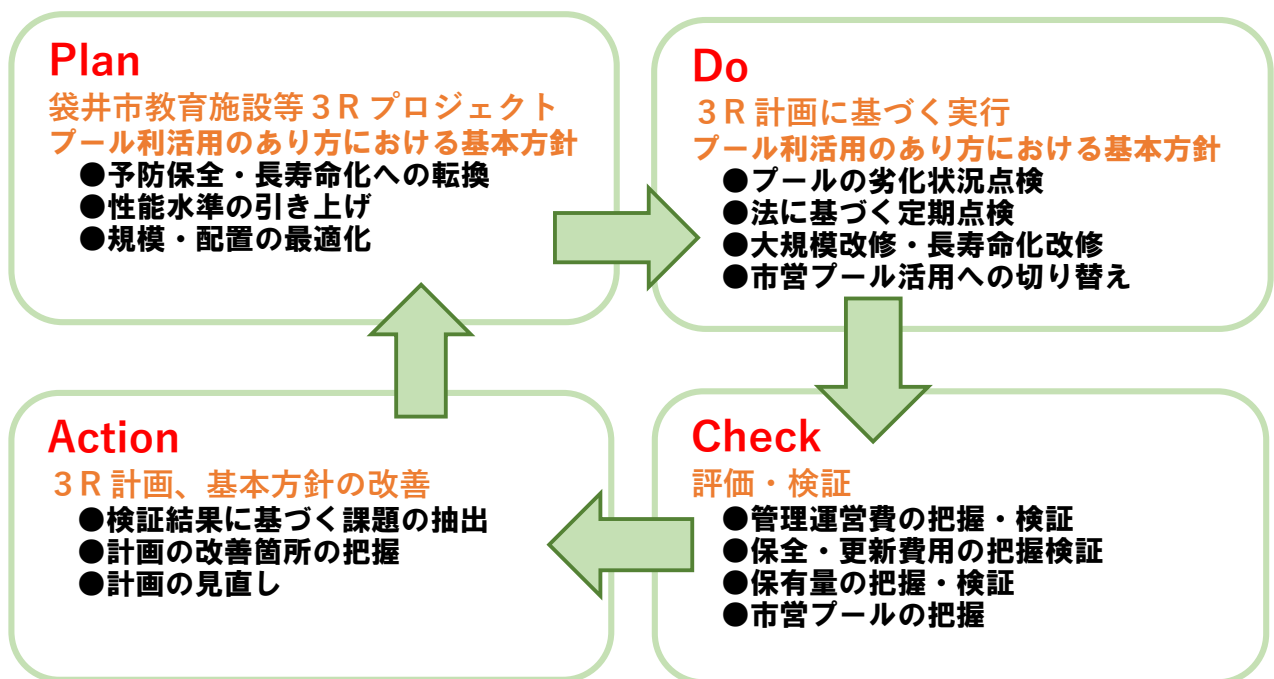
基本方針に基づく確認作業（PDCA）

本方針は袋井市教育施設等3Rプロジェクトと連携し、計画期間内であってもプール施設の定期的な点検及び実態の把握、計画の進捗状況を点検しつつ、必要に応じ見直しを行い、本方針の更なる充実を図る。

フォローアップについては、第一期として令和10年度に実施し、以降5年ごとに方針を見直し、更新を行う。



■ PDCA サイクルに基づく計画のフォローアップ



(3) 長期視点に立った市営プールの需要と供給のバランスの確保

市内3つの市営(温水)プールの利用者数は、今後も一定程度見込まれるが、小学校プールの市営プールへの移行時には、引き続き、市民の健康づくりの場としての役割を担いつつ、小学校の水泳授業の利用とが共存することが必要である。

そのため、「あり方検討型」、「長寿命化型」のプールの移行を検討する段階では、例えば、複数学級、又は複数校での共同利用、各校における水泳授業の年間での実施時期の平準化、さらには、コスト削減のみならず将来的な「学校授業専用プール(温水)」の新規建設の検討など、長期視点に立った需要と供給のバランスの確保が必要とされる。

(4) 切り替え後のプールの跡地利用に向けて

小学校プールの廃止後の利活用については、今後、学校や地域の実情などを考慮した上で、活用のあり方の検討を行う。

令和5年2月策定
袋井市教育委員会
学校教育課・教育企画課